

平成24年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[著作権法]

政治記者**A**は、昨今の政治情勢を大胆に分析した論文**α**を、親しい記者**B**とともに、1年にわたり、月刊誌に連載した。論文**α**の執筆は、**A**と**B**とが話し合っ各回のテーマを決め、隔月ごとに交代で素案を作成することとし、毎月、素案をもとに内容について二人で話し合っ、お互いの担当部分がわからなくなるくらいまで表現を直したり加筆したりすることによってなされた。以上を前提に下記の問いに答えなさい。

- (1) 証券会社**C**は、顧客への情報提供として、論文**α**の特定の回の文章をそのまま、メールで顧客に配信した。この場合、**A**は、**C**の行為に関して、どのような著作権法上の請求をなしうるか。
- (2) 大学受験予備校**D**は、全国模擬試験の試験問題として、論文**α**の一部を翻案して使用した。**A**は、**D**の行為に関して、どのような著作権法上の請求をなしうるか。
- (3) **A**は、論文**α**を一冊にまとめて書籍として出版することを**B**に持ちかけた。**A**は、すでに出版してくれる出版社を見つけており、その出版社の経営状況には何ら問題はない。**B**は、時間の経過により論文の内容が陳腐化していることを理由に、これに反対している。著作権法上、**A**は、**B**に対してどのような請求をなしうるか。

【100点】